

ほのぼの

第43号

平成28年

7月

発行

信行寺門信徒会

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL 078-732-5209

インド・マハーボディ寺院



足元は大丈夫?
住職

今年の五月、G7の伊勢志摩サミット終了後、オバマ大統領が現職のアメリカ大統領として初めて広島を訪問されました。被爆犠牲者の慰靈碑に献花し、被爆者の代表と握手しハグするという感動的な場面がテレビなどで報道されました。

広島平和記念資料館で、和紙の折り鶴とともに手渡された芳名録には、「共に平和を広め核兵器のない世界を追求する勇気を持ちましょう」と英語で書かれているそうです。この言葉に核兵器廃絶運動を推進し、世界平和を目指していくことされる大統領の強い思いがうかがわれます。

人間と他の動物との違いのひとつは言葉を持っていることです。言葉が通じあうのが人間の世界、通じあわないので動物の世界であるといわれます。損得・好き嫌いという日常生活において、ここにところをつい忘れて自分の小さな殻にこもりがち

になつて「あなたと共に」というあり方を見失つて
いる私自身に気づかされます。

言葉は「声」というすぐたにもなり、「文字」・「点字」などにもなつて力を發揮します。これによつて、広く多くの人と交流し、お互いが理解を深め合うことができます。相手の言葉にこめられている広く深い愛情の力は孤立と不安の壁を破つてくれます。

「お母さん」という言葉に母親の徳の全てが込められてゐるよう、阿弥陀さまは、私たちに生きる力を与えるために「南無阿弥陀仏」の名に全ての力を込めて、煩惱の世界が暗闇の世界であることに気づかず生きてゐる私たちに、「南無阿弥陀仏」と呼び掛けてくださいました。私たちが、この世からお浄土までを生き抜く力に阿弥陀さま自身がなられるために。「五劫思惟之攝受 重誓名声聞十方」と『お正信偈』にあります。南無阿弥陀仏の名声は十方に響きわたり、私たち一人ひとりのところに届いています。

この世は、都合の良いことばかりではありません。

苦悩はつきものです。

弱音を	はくな	くよくよ	するな
泣きごと	いうな	後ろを	むくな
ひとつを	願い	ひとつを	しどげ
花を	咲かせよ	よい実を	むすべ

という坂村真民さんの詩があります。「これまでの失敗はひきずるなよ。今からは、花が咲き実のりある人生を目指せよ。遅いということはないぞ」という意です。

人生は長く、幅広く、深く、しかも尊くありたいものです。ことに生まれがたい人間に生んでもらつたいのちですから、粗末な人生で終わつたら悲しむ方がおられることを忘れないように生きていきたいものです。今・ここに、苦悩を乗り越えさせてくださる力「南無阿弥陀仏」が届いております。

今一度、足元を見つめ直す時間を持ちたいのです。

「花まつり」を通して気づくこと

米田 友美

「ここにちは！」
「今年も来たよ！」

礼拝堂に大きな声が響き渡りました。四月五日に今年も「いたやど保育園」のみなさんを迎えて花まつりが行われました。

お釈迦さまに甘茶をかけ、甘茶をもらうと不思議な顔をする子、美味しくおかわりをする子。

その後、献花献灯が行われました。息子の莞爾も今年は献花に挑戦しました。

お勤めが終わると、スライドがありました。子どもたちは、花まつりとは、お釈迦さまの誕生日であること、そして、自分の誕生日も同じくらい大切なものであることを知りました。みんな、真剣にお話を聞いている姿が印象的でした。最後は、恒例のクイズ大会。大いに盛り上がり、花まつりの意味を再確認しました。

次に、みやび会の方々と一緒に歌を楽しみました。保育園のみなさんも歌ってくれました。思わず、アンコール！と言いたくなるような元気のよい歌声でした。

その後、みんなで工作を楽しみました。今年はアンパンマンと自画像のカードを作りました。去年は眠ってしまった。今年はアンパンマンと自画像に作品を仕上げたことをとてもうれしく思いました。

今年は西区から莞爾の友達も駆けつけてくれました。莞爾を通して出会ったこの縁をありがたく思っています。また、お釈迦さまの誕生日である花まつりに集つた子どもたちが、新しく出会い、友達になり、縁が深まっていくといいなと思います。花まつりを通して、我が子の成長と友達の大切さに、改めて気づかされました。来年も礼拝堂にこども達の元気な声が響きますように。



仏陀の道を旅する（前編）

篠島 益夫

今年二月から三月にかけての二週間、兼ねてから希望していた仏陀の道ツアーに参加し、釈尊の昔に思いを馳せながら北インドとネパールの仏跡を中心に旅しました。

このツアーは「ごく普通のものですが、私がここに至るには思いや背景があります。生家は歴代浄土真宗の門徒で、幼い頃から朝晩のお勤めが日常でした。その影響も有るのでしょうか、ご縁を自ら求めて仏教史や教行信証、經典などを手にし始めたのは退職して数年を経てからの事です。これは亡き父母との「信心を持て」という約束を果たすという拘りが私に残っていたからです。結婚して子供達も居る家庭が出来ると、親は帰省の度に「信心を持て」と息子の後生まで心配するので、私は「遠からずそのように」と逃げていました。その頃には約束はできなくとも少しは学ばないと、という気持ちは私もありま

した。漸くそんな機会が巡ってきたのでしょうか。これは父母や亡き兄弟達が、私をそのように行動させている還相向の働きなのかもと考えています。

しかし、自習を始めると論理の整合が出来ないこともあります。困惑も増え、これを問うとか、確認する事が欠かせなくなり、指導してくれる方を捜すことになりました。目的に叶う浄土真宗寺院を捜すべく別院にも相談しました。しかし、何処が適当かは教えてくれません。そこで浄土真宗寺院を自分で探すことにしました。寺院探しを始めて数件目で、幸いにも講座や法座などが他寺院とは格別に充実した寺院、信行寺さんに行き着きました。「講座や法座などの年間スケジュール表もあるので気軽に来てください」との米田住職の返答があり、自分の名前だけを告げて、講座や法座への参加を申し込みました。初参加は二〇一三年三月十日夜の仏教講座でした。その後もこの「縁はそのまま続き、講座参加の先輩方の影響もあり、二〇一四年九月からは中央仏教学院の通信教育生ともなっています。

自分の中ではこんな自分の背景と仏跡の旅は、連動

していますし、良いご縁に出会うかどうかが信心を頂くチャンスだと思います。

本題の「仏陀の道を旅する」は写真中心で報告する心算です。二回の寄稿に分けてはとのご意見もあり、今回は前編として後編は「ご縁があれば次回号でする事と致します。



二月二十二日
鹿野苑・現サールナート初転法輪の地ムガランダクテイ寺院
お釈迦様の生誕から入滅まで
を壁画に描いて寄贈
日本画家、野生司香雪



二月二十四日
ブッダガヤ成道の地
マハーボディ寺院
(世界遺産)
五体投地で礼拝、読經する
人もあります



平成七年の震災では、鷹取市場が全焼しました。
その時、三ツ輪さんの店の場所がわからなくなるほど、被害を受けられました。しかし、三か月後には現在の場所で店を開き、営業を再開することができます。今年で開業七十六年目を迎えられます。これからもおいしい神戸牛をお客様にお届けするために日々努力されておられます。

門信徒会会員である竹中利明様が、春の叙勲で「旭日双光章」を受賞されました。元県食肉生活衛生同業組合理事長を務められ、長田区日吉町で「神戸牛 三ツ輪」を営んでおられます。

春の叙勲受賞おめでとうございます



第十五回 門信徒会定期総会

ナモ・ブツダ（捨身飼虎）

副住職

平成二十八年四月二十三日（土）に門信徒会「第五回定期総会」が行われました。新田泰三会長、逢坂総代のあいさつの後、二十七年度事業報告及び会計報告、二十八年度事業計画及び予算案、役員改正案等の質疑応答があり、承認されました。

来年四月一日（土）には、本山での伝灯奉告法要への団体参拝を信行寺でも予定していることの話がありま

す。（参加者を募集しています。）

その後、住職・副住職から法話がありました。副住職からは、ネパールの写真を交えながら、”見返りを求める布施の心”について話がありました。

ネパールの首都カトマンズから車で二時間ほど自然豊かな山の山頂近くに「ナモ・ブツダ」という仏教の聖地があります。そこは釈尊がゴータマ・シッダルタとしてこの世に生まれる前に菩薩として修行をしておられたときの話「ジャータカ」にある「捨身飼虎」の場所です。

そのお話とは、昔、ネパールに三兄弟の王子がいました。末っ子の薩埵王子は、ことのほか慈悲深い性格をしていました。ある日、森の中で遊んでいると、飢えて死にそうな母親の虎を見つけました。その虎の乳には数匹の赤ちゃんがしがみついています。それを見た薩埵王子は、どうにかしてこの虎の母子を救いたい



という憐みの心がとめどなくあふれきました。

そしてついには、自分の身を捨てて飢えた虎を救おうと、絶壁によじのぼつて、身を投げてその体を虎に与え、その母虎の飢えを満たし、虎の子の命も救いました。



この場面が、法隆寺の玉虫厨子にも描かれています。この薩埵王子こそ釈尊の前世の姿なのです。紀元前五世紀ごろ、ネパールの釈迦族の王子ゴータマ・シッダルタとして生まれた釈尊は、二九歳で出家して三五歳のときに悟りを開いて仏陀（目覚めた人）と呼ばれるようになります。これは歴史上の事実です。しかし、釈尊はその人生における六年間の修行だけで仏陀になつたのではなく、薩埵王子のように善行を積み、何度も生まれ変わって菩薩としての生を幾度も重ねてこ

られたからこそ、人間の姿のまま完全な悟りを開かれたのだ、と後の佛教徒は考えるようになりました。

このジャータカ物語を本で読んだときは、現実味のない作り話のように感じていましたが、実際にナモ・ブツダの地を訪れてみて、本当に実在する場所でおこった出来事、として受け止めることができます。

仏陀が過去世で行つた善のほとんどは、他の者の幸せのために我が身を捨てるという慈悲の行為であり、また見返りを求めない布施の行為であります。そして、その慈悲の心や布施の行いは人間に対してだけでなく、全ての生き物に向けられていました。菩薩や仏さまの眼からみれば、生きとし生けるもの全てが過去の人生における六年間の修行だけで仏陀になつたのではなく、薩埵王子のように善行を積み、何度も生まれ変わって菩薩としての生を幾度も重ねてこ



✧ 本堂納骨お盆法要

八月十六日（火）

午後二時より 本堂にて

✧ 夏期特別法座

八月二十日（土）

午前十一時から午後三時

信行寺 本堂・礼拝堂にて

✧ 秋の彼岸法要

九月二十四日（土） 武田 宏道 先生

一十五日（日） 住職

両日とも二時より 本堂にて

✧ 西大谷納骨参拝

十月十六日（日）

バスで一緒にいきますのでご参加希望の方はお早めにお寺にお問い合わせください。



今年の秋より、ご本山では伝灯奉告法要が行われます。平成二十九年四月一日（土）に、信行寺からも貸切バスで参拝いたします。詳しくは、別紙案内プリントをご覧いただくか、信行寺までお問い合わせください。

伝灯奉告法要への参拝者募集



大阪高槻の十六ヶ寺、百余名の住職さん門徒さんが、信行寺に研修参拝に来られました。住職が震災体験を交えて、お話をさせていただきました。信行寺が全焼した後、五年で立派に再建できました。初対面にもかかわらず、笑顔で喜び合えたのも、お念佛を喜ぶ者同士だからと。。信行寺の「やわらか焼」と「ほのぼの四十号」をお配りしました。

また秋には、広島県と滋賀県からの参拝をお迎えする予定です。不思議なご縁を有難く思います。

米田 弘子

